

読書有訓

— 故 渡部 昇一先生に学ぶ —

先日、日本を代表する「知の巨人」のお一人で、私が最も尊敬してやまない故 渡部 昇一先生わたなべ しょういちの御自宅に伺う機会がありました。

初めてお会いした奥様、お嬢様は、知性の高さの中にも、気さくなお人柄の方方で、さすがに良家の家風を感じました。

無理をお願いして先生の書齋を見学させて頂きましたが、想像を遥かに超える書齋で、和洋の蔵書でかるく30万～40万冊はあると思われる本の数々で、しかも、それは先生が長い間じっくり読み込んでこられたものばかりで、見事に整理され、驚嘆ものでした。

渡部先生は山形で生まれ、苦学をして、上智大学から、ドイツ:ミュンスター大学、そしてイギリス:オックスフォード大学に留学され、アメリカでも教鞭を執られた方で、御専門の英語学で若くして世界的な実績を上げられ、専門分野以外でも、あらゆる分野に通じておられ、その御著書、御講義は読む人、聴く人を魅了しながら、学ばせる稀有な方でした。

残念ながら5年前に86歳で他界されましたが、日本から大きな知の財産が失われた事を先生の死後、時間が経つごとに深く、重く感じています。

御長女の眞子様が一言おっしゃった「何より父の頭の中にあったものが遺せなかったのが一番惜しかった」という言葉が強く心に響きました。

先生とは数回お会いしたことがあり、今一番悔いが残るのは、先生が御健在の時にもっと先生の馨咳けいがいに触れる程の人的距離で、直接学んでおれば良かったという事です。

- 先生から頂いた本で、「読書有訓」という本があり、その中に、「習慣の力」の重要性について書いてあります。
- ・習慣は内的性質を持つ事柄に対してのみ役立つのではなく、高次元の精神的性質を持つ事柄に対しても役立つ。
 - ・怠惰な人はある時だけ怠惰になるのではない、常に怠惰なのだ。
 - ・ケチな人はある事柄やある人に対してだけケチなのではない、すべてに対して常にケチなのだ。
- 同様に美德もまた習慣である。
- ・正直な人は誰に対してもいつでも正直であって嘘はつかない。
 - ・勤勉、節制、儉約、寛大といった美德もまた習慣のものなのである。
 - ・美德の習慣が身についたらそこで、人生の苦労や困難の大部分は終わりになる。

といったヒルティの一節を引用されながら、「勤勉」だった日本が「怠惰」な日本に変わっていつている風潮きんぐを危惧されておられました。

国難の時代にあつて、日本の劣化を強く感じる最近、我々は渡部先生の遺された多くの御著書を読み返しながら、再び勤勉な日本へ立ち返る努力を皆が真剣に実践したいものです。

徳真会グループ
代表 松村 博史



悟りの窓/明月院(神奈川県)



表紙の絵画について

〈深谷隆司先生作〉

松村代表と親交のある深谷先生に「春夏秋冬」の絵えを揮毫きごういただき、徳真会グループのわかば台デンタルクリニックにある絵画ギャラリーコーナーに飾らせていただきました。本号では秋の絵(50号大)を表紙に使わせていただきました。



深谷隆司先生プロフィール

1935年9月29日浅草生まれ 自民党東京都連最高顧問。TOKYO 自民党政経塾塾長。温故知新塾塾長。27歳で台東区議会議員に当選。33歳で都議会議員を経て、37歳で衆議院議員となる。当選9回。郵政大臣(第52代)、自治大臣(第47代)、国家公安委員会委員長(第57代)、通産産業大臣(第64代・65代)、自由民主党総務会長(第39代)、予算委員長、テロ対策特別委員長を歴任。